

注 意 報

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）

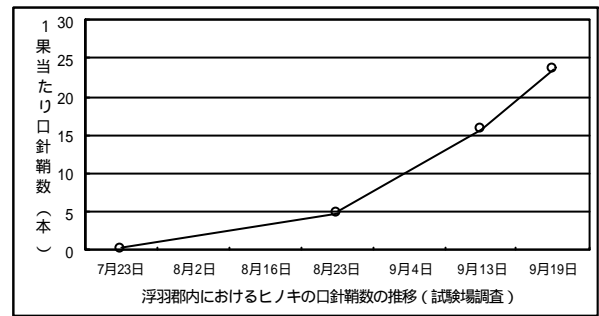
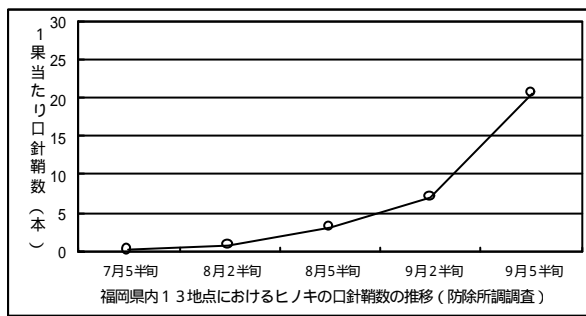
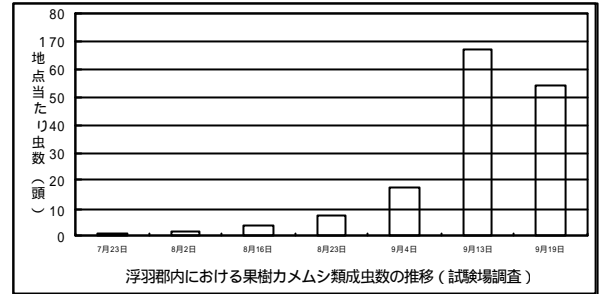
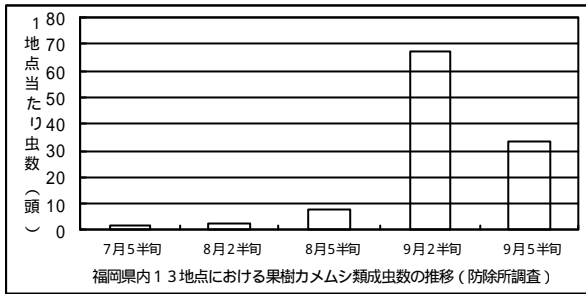
このことについて、病虫害発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

平成13年度病虫害発生予察注意報第1号

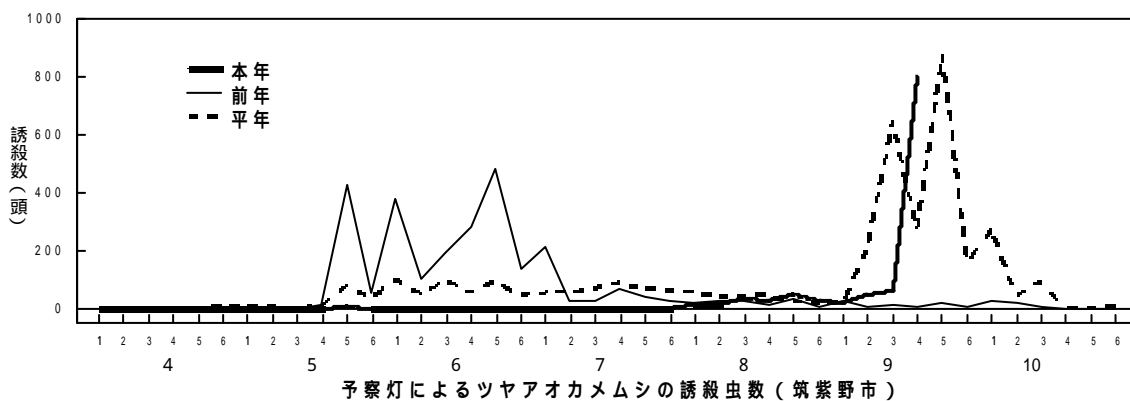
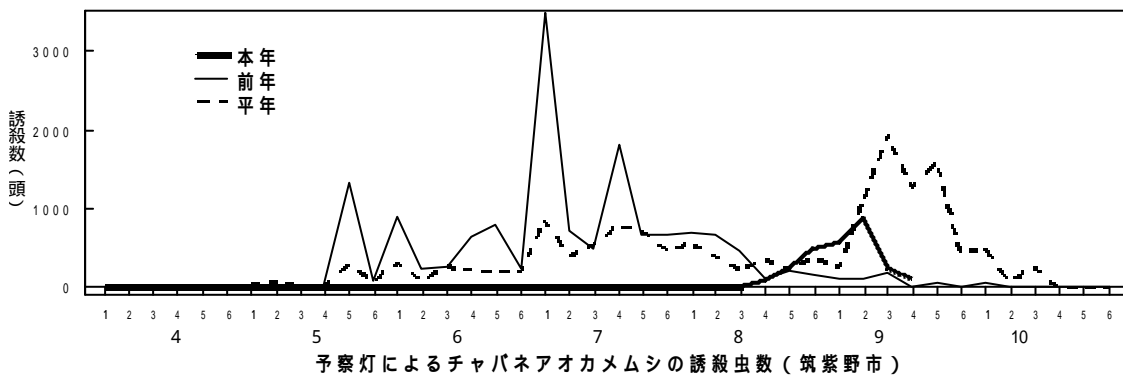
- 1 対象作物 カキ、カンキツ類
- 2 病虫害名 果樹カメムシ類
- 3 発生地域 県内全域
- 4 発生程度 極多
- 5 予報内容
 - (1) 数日のうちに、極めて多くのカメムシ類が果樹園への飛来し、被害が多発する恐れが強い。
- 6 注意報発令の根拠
 - (1) 9月2半旬の調査では、ヒノキ樹上のカメムシ数は、県下13地点の平均で1地点当たり67.4頭（平成14.5頭）と極めて多かったものの、口針鞘数は7.1本と少なかった。しかし、9月5半旬には、甘木朝倉管内で口針鞘数が20.6本と急増し、近々ヒノキを離脱して、果樹園へ飛来する恐れが強い。
 - (2) 県北地域では、樹上の虫数が9月5半旬に減少しており、一部ですでに離脱が始まったものと思われる。
 - (3) 浮羽郡内（浮羽町、吉井町、田主丸町）における福岡農総試の調査においても、9月中旬以降、樹上の虫数が急増した。9月19日現在、樹上の虫数に変化はないが、ヒノキ球果における1果当たり口針鞘数の3カ所の平均が約24本に達し、離脱が間近になっているものと思われる。
 - (4) 筑紫野市吉木におけるチャバネアオカメムシの8月1半旬から9月19日までの累計誘殺数は、予察灯では2,745頭（平成12年：8,803頭、前年：2,786頭）と前年並み、集合フェロモントラップでは89頭（前年：2,553頭）と少なかったが、9月15日以降増加している。また、ツヤアオカメムシの累計誘殺数は、予察灯では、1,106頭（平成12年：1,390頭、前年：198頭）と平成12年並み、集合フェロモントラップでは44頭（前年：18頭）とやや多く、9月15日以降増加している。
 - (5) 9月5半旬現在、一部のカキ園で局地的に被害が発生している。

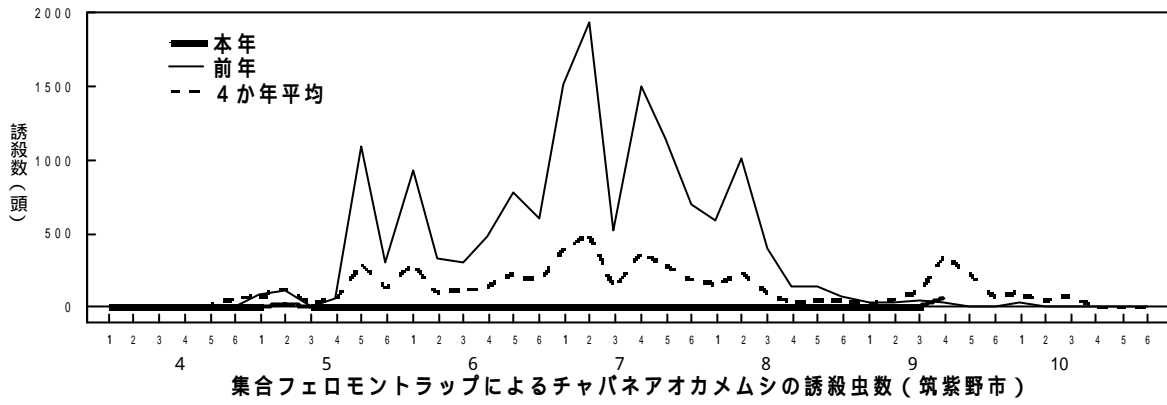
6 防除上注意すべき事項

- (1) 多飛来が予測されるので、早急に防除を実施する。
- (2) 熟期の早いミカンやカキでは被害が早くから発生しやすいので注意する。
- (3) 防除薬剤は、平成13年度果樹病害虫防除基準を参照し、農薬安全使用基準（収穫前使用規制日数等）を遵守する。
- (4) 今後の発生予察情報に注意する。

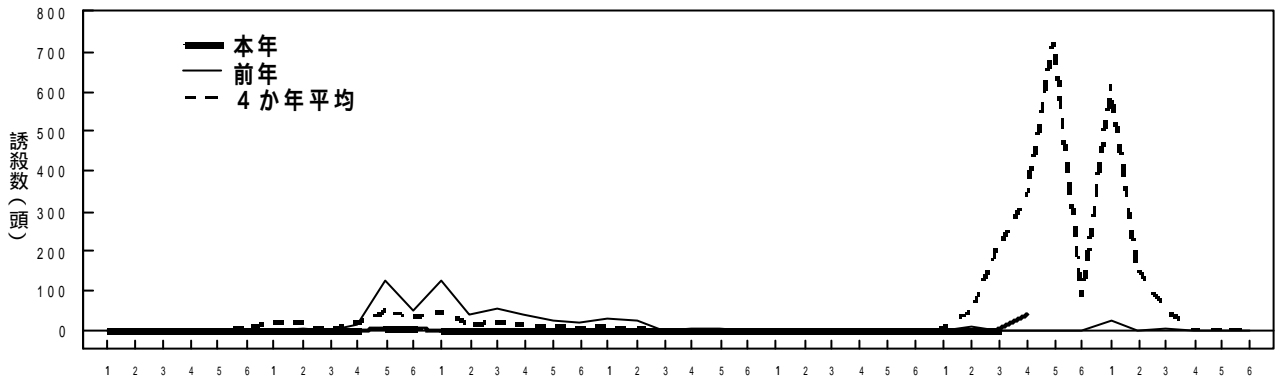


第1図 果樹カメムシ類のヒノキにおける寄生成虫数と球果の口針鞘数の推移
 注) 9月5半旬の防除所調査は甘木朝倉管内のみ
 1地点あたり虫数は、防除所は5枝、試験場は3枝の合計

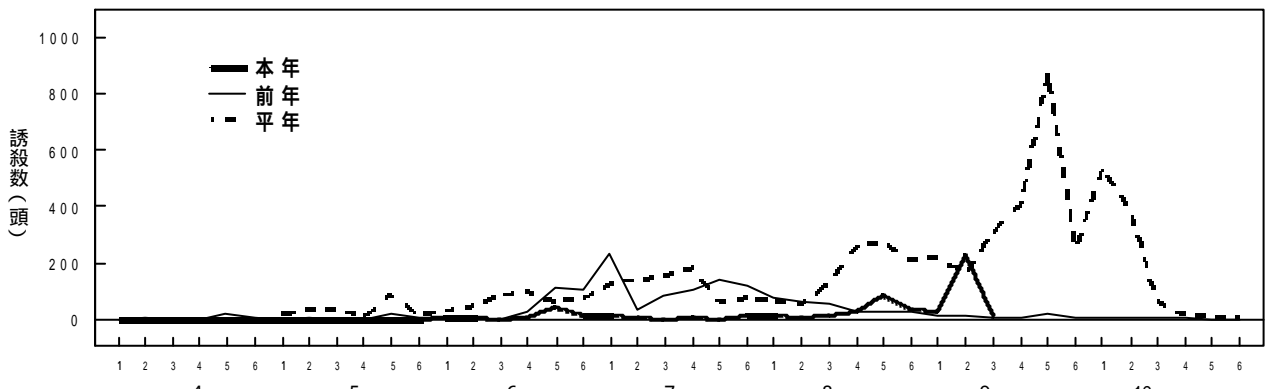




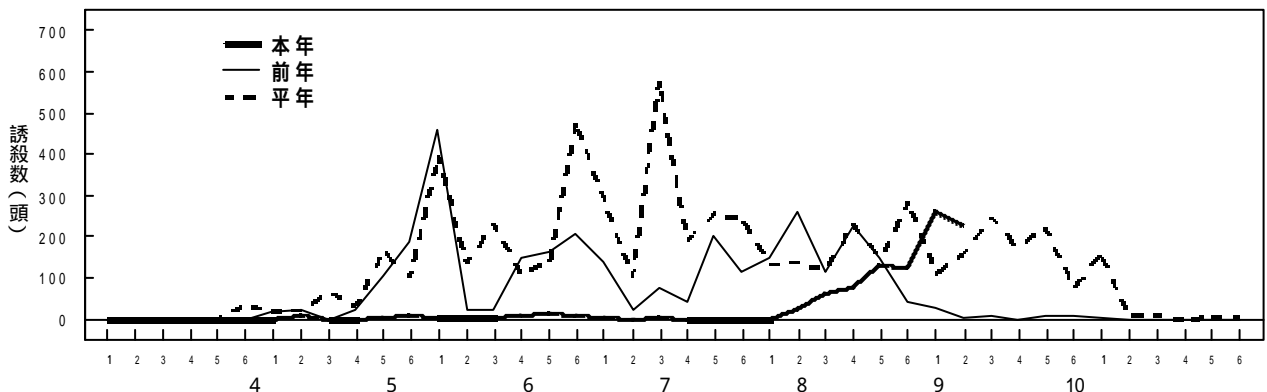
集合フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺虫数（筑紫野市）



集合フェロモントラップによるツヤアオカメムシの誘殺虫数（筑紫野市）



予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺虫数（吉井町）



予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺虫数（黒木町）

